

私は、高校に入ってから初めて交通量調査というものを知りました。1年生の時に交通量調査をやってみて、とったデータはどのように使われ、何のために調査をしているのだろうと不思議に思いながら実施をしていました。そして、3年生の課題研究の授業で交通量調査を選択しました。

交通量調査の日に向けて、当日必要な道具（バインダー、カウンター、記録用紙）の用意をしました。バインダーやカウンターは、使えるかどうかひとつずつ丁寧に確認をしました。そして、1年生の班長になった子に集まってもらい当日の説明をしました。説明をするまでに、場所ごとに分けた封筒の中身の確認をしました。説明会では当日までに何をカウントするのかを決め、記入してもらい、当日の流れを説明しました。説明会をすることで、当日困ることがなく交通量調査を終えることが出来るのだと思いました。当日の巡回では、1年生が困っていることはないか確認の声掛けをし、巡回する場所を手分けして効率よく周ることが出来ました。実施後、1年生が記録したデータを時間別・年度別で集計をし、前年比などを出してまとめました。実際に準備をしてみて、1日しかない交通量調査のためにこんなにも準備の工程がありびっくりしました。私が1年生の時何気なくやっていた交通量調査は、先輩方がこんなにも私たちの知らない所で1年生が困らないように準備をしてくれていたからだ気づくことが出来ました。

愛知大学の合同授業では、GPSとGISの違いやGPSロガーの使い方などを学びました。GPSは、私たちが普段から持ち歩いているスマートフォン、位置情報を特定するアプリや位置情報を活用して運用しているアプリに使われており、気づかないうちに利用していることを知りました。GISは、住んでいる人の数や標高、道路などを重ねることで分析をしていることを知りました。主に、都市計画やビジネス店舗の出店計画、顧客動向分析などに使われていました。GPSロガーは、通ってきた道を記録することができ、ポイントを決めボタンを押すとボタンを押した場所の記録をすることができ、実際に交通量調査の巡回の時には郵便ポストがある場所を記録しました。

課題研究の授業で、交通量調査とは何なのかを知ることが出来ました。交通量調査のデータは、私たちに大きく関わっており、気づかないだけで活用されているものがたくさんあると知りました。細かい作業が多く大変でしたが、良い経験になったと思います。今まで受け継がれてきた交通量調査をこれからも大切にしていってほしいと思います。